

オハイオ銀行協会の成立, 1891—1908年

— アメリカにおける地域業界団体活動 —

小林 啓 志

- I. 序
- II. アメリカ銀行協会の設立
- III. オハイオ銀行協会の設立
- IV. オハイオ銀行協会の発展
- V. 結 語

I. 序

業界団体は、アメリカにおいては、19世紀後半以降、設立され、定着を遂げた、1つの社会制度である。業界団体の活動は、統計の蒐集（組織の内部問題）から、広報活動（組織の外部問題）にまで、広範に及んでいる。この業界団体の多様性のため、又業界団体は単に企業を補完しているに過ぎないと考えられたため、永年多くの研究者は、業界団体の歴史研究を軽視して来た。しかし、ロバート・H・ウィービーの『秩序を求めて』の刊行、及び現代アメリカ史における組織総合化理論の抬頭以来、業界団体及び経済団体の研究が、歴史家の関心を魅くようになって来ている。業界団体の研究が、研究者の関心を捉えた理由は、正に業界団体が組織社会の時代に台頭し、そして現代社会で最も影響力のある企業と政府の、2つの社会制度の間に立つ社会制度であるからである。⁽¹⁾

具体的内容に入る前に、「業界団体」という用語を定義し、業界団体の通史について、簡単な説明をしたい。ジョセフ・F・ブラッドレーに依れば、「業界団体は、企業およびビジネスマンの集団が、共通の問題の解決のために、加入して創った組織であり、その構成企業および個人会員は、同一または類似の系列の経済活動に従事している。」⁽²⁾現存する業界団体の起源は、1850年代にまで逆上る。1855年に、アメリカ鉄鋼協会（the American Iron and Steel Institute）が設立され、1862年には、全米醸造業者協会（United States Brewers' Association）が設立された。それ以降、多くの業界団体が、アメリカにおいて、製造業のみならずサービス業で、勃興していった。1866年には、全国火災保険業協会（the National Board of Fire Underwriters）が設立され、1875年には、アメリカ銀行協会が設立された。⁽³⁾1966年に、ルイス・P・ガランボスは、綿繊維業において、地域業界団体がどのように全国業界団体を創設したかを明らかにした。より最近では、ウィリアム・G・ロビンスは、材木業において、セクショナルな業界

団体がどのように全国業界団体を形成したかを明らかにしている。しかし、これらの研究は、製造業における業界団体に関するものである。製造業の業界団体で展開されたパターンは、果たしてサービス業の業界団体にも、適用可能であろうか。(4)

銀行業では、地域業界団体が全国業界団体を創設したのではなく、個々に独立した銀行家たちによって、全国業界団体は創設された。更に、地域業界団体は、地域集団によって創設されたと言うよりも、むしろ全国業界団体が地域（州毎の）業界団体の確立を促したと言える。アメリカ銀行協会は1875年ニューヨーク州サラトガで結成され、その時32の州と準州を代表する350名の銀行家が集結した。1876年の総会で採択された宣言目的は、「銀行及び銀行業務に従事する金融機関の一般的福祉と有用性を促進すること、及び行動の統一性を確保すること」であった。(5) 全国レベルでの、恒久的な組織のこうした確立の後に、やがて多くの銀行家は、州毎に次から次へと、立法化及び広報活動における相互利益を促進するために、地域業界団体を設立して行った。1884年にはノース・ダコタ銀行協会とサウス・ダコタ銀行協会が設立され、そして1885年には、テキサス銀行協会が設立された。1890年までには、11州に、州銀行協会があった。ロード・アイランド銀行協会が、アメリカにおける48番目の州銀行協会として設立されたのは、1915年であった。こうして設立された中で、オハイオ銀行協会が設立されたのは、1891年であった。(6)

オハイオ州には、3種類の銀行家が設立当時存在し、その3つの範疇（カテゴリー）の存在が、オハイオ銀行協会の結成と発展に、大きな影響を与えた。第1のグループは、連邦政府に設立許可を与えられた国立銀行であった。19世紀後半、国立銀行が、大部分オハイオ州における銀行業務を支配していた。第2のカテゴリーは、オハイオ州に設立許可を与えられた州立銀行であった。州立銀行は、19世紀末から20世紀初頭にかけて、その数が増大して行った。第3のタイプは、全くの個人によって設立された民間の銀行であった。民間銀行は20世紀初頭以来、増加していった。国立銀行は、毎年連邦政府当局によって検査は受けていたが、他の銀行は、いかなる法律によっても、政府当局に検査されることはなかった。この違いが、いくつかのコンフリクトを創り出した。(7)

業界団体の抱える問題は、主として、メンバー間のコンフリクトと妥協の問題であった。業界団体は、例えば企業や政府のように堅く結合した組織と較べて、緩やかに結合した組織であるので、常にメンバーの統制の問題に直面しなければならなかった。いかなる業界団体でも、もしこの問題を克服できれば、その組織の制度化の行動開始期を通過したと言えるだろう。そしてこの理由の故に、根本的な疑問は、どのようにして、オハイオ銀行協会はメンバー間のコンフリクトを解決したか、ということである。従って、本稿は、様々な利害関係者の検討を行ない、その検討を通じて、アメリカにおける業界団体の実体の理解に、貢献することを意図している。

オハイオ銀行協会については、既にいくつかの文献が存在する。ベルフォード・P・アトキンソンは、『オハイオ銀行協会の最初の75年, 1891—1966年』で、各年の年次総会の議事録を要約している。(8) オハイオの銀行業について、いくつかの歴史研究があるが、いずれも1865年から1920年の期間に関するものではない。(9) 又、アメリカの銀行業の業界団体については、わずかな研究

しかない。ウィルバート・M・シュナイダーは、アメリカ銀行協会について書き、そしてマンセル・G・ブラックフォードは、「カリフォルニアにおける銀行業と銀行立法, 1890—1915年」の論文の中で、カリフォルニア銀行協会について書いている。¹⁰ アメリカにおける銀行業務活動について、多くの歴史家は、例えば金融史あるいは貨幣史のように、銀行業のより広い観点から、考察している。同様に、いくつかの州の銀行史に関する研究も存在する。¹¹

II. アメリカ銀行協会の設立

1873年の金融恐慌を経験した、著名な銀行家たちによって、アメリカ銀行協会 (the American Bankers' Association. 以下ABAと略記) は、1875年に設立された。ABAの組織としての目的は、「相互利害の前進と保護の観点から、銀行役員と銀行家を、より緊密な関係にすること」にあった。¹² 1876年に採択された宣言は、「個人的な付き合いからだけでなく、我が国の銀行業及び商業の利害関係者にとって、重要な問題を討議することによって、得ることの出来る実際的な便益と同時に、銀行及び銀行業務に従事する金融機関の一般的福祉と有用性を促進すること、及び行動の統一性を確保すること。そして特に、我が国全体の銀行業の利害関係者に影響を及ぼす、金融上及び商業上の慣習と法律に関する疑問点を、適切に考慮することを確実にするよう……」, 新たに発足した業界団体であるABAに、挑戦を要求していた。¹³ 設立当初は、銀行業の利害関係者の多様さの故に、ABAは、会員数を大幅に増加させるのに失敗した。ABAのメンバーの中には、5つのタイプの銀行（国立銀行、州立銀行、信託会社、貯蓄銀行及びその他銀行業を営む企業）があり、そして各メンバーは、ABAの年次総会に、代表を1名送ることができた。ABAの役員は、新しくメンバーを獲得しようと努めたが、その努力は成功しなかった。1875年9月1日には、会員数はわずかに1600であった。設立以来20年間、会員数は比較的少ないままに留まっていた。例えば、1885年9月1日の会員数は1395、そして1895年9月1日の会員数は1570であった。しかし、それ以降、会員数は上昇を始めた。例えば、1896年9月の会員数は2188、そして1897年8月10日の会員数は2813であった。1905年8月31日の会員数は7677であり、これはアメリカ全銀行の約3分の1であった。そして1920年8月31日には、ABAの会員数は、アメリカの全銀行数の31,023行のうちの22,687行であった。しかしながら、既に1900年には、ABAは、銀行業の世界において、認知された1つの制度となっていた。¹⁴

最初の20年間は、ABAは今だに十分組織化されていなかったため、多くの銀行家と地域の、様々な利害を体現化することはできなかった。第1に、ABAは、5つのタイプの銀行家の、異なった利害に対応することはできなかったし、彼らの声をABA内部に吸収することもできなかった。組織内に、ABAが信託部を設立したのは、1896年であった。それ以降、ABAは、各利害関係者に対応するために、異なった部門を設立していった。ABAは、1902年に、貯蓄銀行部、1912年に国立銀行部、そして1916年には州立銀行部を設立した。こうした部門の確立の後に、異なったタイプの銀行家は、各々ABAの活動に影響を与えることができるようになった。¹⁵ 第2に、ABAは、各州が各々異なった銀行法を持っているので、各州の立法化には影響を及ぼすことができなかつ

たし、各州の異なった利害関係者に対応することもできなかった。ABAは、各州の銀行家の声を反映させるシステムを持っていなかった。そこで1889年の総会で、州団体がまだない各州及び準州の銀行家は、全国団体であるABAと協力して、各々州団体を結成するよう推奨し、そして各州にABA内に代表権を与えるために、定款の第3条第2項を修正するよう提案した。1892年以降、各州の代表が、ABAの総会で、各州の報告をするようになった。¹⁶⁾

州団体の目的は通常、全国団体で行われるのと同様に、各々の州における相互利害を討議し、促進することであった。1889年のABAの年次総会以前には、わずか8州に州団体があるにすぎなかった。それらの州は、ノース・ダコタ、サウス・ダコタ (1884年)、テキサス (1885年)、カンサス、アイオワ、ミネソタ、ミシガン (1887年)、ミシシッピ、ワシントン (1889年) であった。しかし、1889年の総会で、ABAの理事会委員長、ジョン・ジェイ・ノックスの推奨と、N・B・ヴァンスライケの「州団体」に関するスピーチの後、銀行家は、州団体の結成を開始した。それらの州は、ネブラスカ、テネシー (1890年)、カリフォルニア、ミズーリ、ケンタッキー、アーカンソー、オハイオ (1891年)、ウィスコンシン、ニュー・ハンプシャー、ジョージア、イリノイ、アラバマ (1892年)、ヴァージニア、ルイジアナ (1893年)、ウェスト・ヴァージニア、ニューヨーク (1894年)、フロリダ、ヴァーモント、ペンシルヴァニア (1895年) である。これらの州団体は、徐々に、各州の銀行家を統一し、銀行業における相互利害を促進させる基盤を与えるのに、成功した。¹⁷⁾

1896年以降、州団体とABAは、互いに補完し、銀行家の共通利害の促進に成功し始めた。ABAは、組織内に、州団体の代表権を保証した。1895年の総会で、ABAは、「銀行及び銀行家より構成される、いかなる州団体も、本団体の全ての総会において、当該州団体の50会員に対し各1名の代表によって代表される。そしてその代表は、総会の全ての特権を付与されるものとする……」ように、定款の第2条第3項の修正に合意した。こうして、この比例代表制によって、銀行家の不満は解消した。この時以来、ABAの会員数は、徐々に増加を始めた。更に、州団体はいくつかの計画を実行に移し始め、そして州団体の会員数の上昇に成功した。これらの計画は、主として、州立法に関連したものや、例えば「グループ・システム」のような、いくつかの委員会の制度化に関するものであった。¹⁸⁾

Ⅲ. オハイオ銀行協会の設立

オハイオ銀行協会 (the Ohio Bankers' Association. 以下OBAと略記) の結成以前に、オハイオでは、同様な州団体を結成しようとする試みがあった。その試みは失敗に終わった。シンシナチの銀行家で、1889年にABA副会長であったG・P・グリフィスは、「何人かのシンシナチの銀行家は、数年前、州団体を設立しようとしたが、当時その試みは歓迎されなかった」と、1901年に述懐している。¹⁹⁾1888年、ABAは、シンシナチで年次総会を開催している。オハイオ州の92名の銀行家が、この総会に出席し、そのうち68名は、シンシナチの銀行家であった。この銀行家たちが、州団体を結成しようとした。しかし、その試みに加わったシンシナチの銀行家の比率が

余りに高かったため、オハイオの他地域の銀行家は、この団体結成の試みを支持しなかった。²⁰

しかし、田園地帯の銀行家たちがOBAを結成しようとした時、オハイオの銀行家は、団体の結成に同意した。ティフィン第一国立銀行支配人で後にOBA初代会長になった、ジョン・ウィルソン・チェンバレンは、OBAの結成に関して、オハイオ州の約20都市の知人の銀行家に、手紙を書いた。オハイオのいかなる特定地域の銀行家も、この団体を支配する徴候がなかったので、2ヶ月後、オハイオの銀行家は、OBAの設立に合意した。²¹

1891年11月5日、オハイオ州の127の銀行の133名の代表が出席し、そしてOBAを設立した。この総会で、出席者は、OBAはどうあるべきかを議論し、決定した。出席者は、定款と細則について議論し、3名を国立銀行から、3名を州立銀行から、3名を民間銀行から選ぶ、9名のメンバーから成る委員会を任命した。国立銀行からは、J・W・チェンバレン（ティフィン）、J・J・サリヴァン（クリーブランド）、A・S・イースタブルック（デイトン）、民間銀行からは、P・W・ハンチントン（コロンバス）、D・C・ワインガーナー（ニューアーク）、ジョン・ウォーカー（ローガン）、そして州立銀行からは、M・T・ヘリック（クリーブランド）、W・H・キャンベル（シンシナチ）、エミール・キースウェッター（コロンバス）、が任命された。又総会の出席者は、ABAの宣言の中の「我が国」と「我が国全体」を、わずかに「オハイオ州」と「我が州全体」に変えただけで、OBAの宣言を採択した。ABAと全く同じ宣言を用いたことから明らかなように、OBAの創設者の目的も、全く同一であった。すなわち、銀行業における相互利益の促進であった。²²

OBA設立後、会員数は徐々に増加した。1892年までには、加入者数は、オハイオの総銀行数632行中、245行に増加していた。1900年には、同州の総銀行数755行中、429行、そして1905年には、999行中、641行が加入していた。1907年の「グループ・システム」の採用及び1908年のトーマス銀行法案の可決以降、OBAへの加入率は、より高くなった。²³

1908年までには、OBAは既にその基盤を確立していた。メンバーは、1907年10月に、コロンバスに恒久的な本部を設置した。それ以降、常設された事務所によって、OBAのメンバーは、一貫したサービスを受けることができるようになった。又、サウス・チャールストン銀行の出納係で、1903年以来OBAの副事務局長を務めていた、S・C・アーバックルが、自行を退職し、OBA専従の役員となった。それまでは、選任された銀行役員が、兼任ベースで、必要な時に、OBAのために働いていたに過ぎなかった。業界団体では、常設の事務所と専従の役員を持つことは、通常、業界団体の成熟を示す象徴である。²⁴

常設の事務所と専従の役員に加えて、OBAは、1908年3月に、『ジ・オハイオ・バンカー』という公式の機関誌を刊行し始めた。OBAは、この月刊誌によって、同団体のやっている仕事について、情報を与えることを目指していた。創刊号で、「本誌の主たる目的の1つは、オハイオの銀行を、より互いに接触させ、そして当組織〔OBA〕の仕事により接触させることにある。『ジ・オハイオ・バンカー』誌を通じて、当州の銀行に関するニュースが、定期的に交換され、そしてそうすることによって、我が州の銀行家が、はるかにより緊密になるだろう」としている。

この記述に依れば、この公式の月刊誌は、情報を提供するだけでなく、OBAの影響力を強めるために、議論の場をも提供することを、目的としていたことは明らかである。²⁵⁾

IV. オハイオ銀行協会の発展

OBAは、オハイオの銀行家の相互利益を促進するために、2つのプログラムを軌道に乗せた。第1のプログラムは、OBA内に、「グループ・システム」を導入することであった。同「グループ・システム」に依れば、OBAは同州をいくつかの区域に分け、そしてその区域内で、銀行家は一年に数度会合を持ち、そして相互利益を促進させることになっていた。第2のプログラムは、オハイオにおける銀行立法を奨励することであった。主たる目標は、州銀行省を創設する法律を制定し、そして同法の下で銀行を検査することにあった。この2つのプログラムの採用と可決によって、OBAは、オハイオの銀行家の間の利害関係のコンフリクトを減少させ、全ての銀行家をより巧く代弁できるようになった。

1898年に、オハイオの銀行家は、初めて「グループ・システム」について議論した。ニューヨーク州銀行協会前会長からの手紙を、要約して紹介した後、シンシナチのジョージ・W・グッケンバーガーは、「銀行業の実務的手段」と題したスピーチの中で、グループ・システムの採用を推奨した。そのスピーチの中で、同システムを次の様に論述している。「このシステムの下では、いくつかの純粋に地域的な共通の利害を持っている、ある特定地域の銀行家が、一年に数度会合を持ち、そしてその結果、より親密になり、そして全員に利益をもたらすような一種の友愛的な感情を得るようになる。」又、グッケンバーガーは、トレド、クリーブランド、その他のエリー湖沿いの都市の銀行家の利害と、シンシナチ、ポーツマス、その他のオハイオ河沿いの銀行家の利害は異なっているので、州の各々の地域の銀行家は、1年に2回か3回は、互いの友愛関係を深めるために、会合を持った方が良いだろうと説明した。しかし、この提案が行なわれた時には、このシステムを採用するに十分な感情は、メンバー間にまだ醸成されていなかった。²⁶⁾

オハイオの銀行家がグループ・システムに関心を示さなかった、この期間に、いくつかの他の州の銀行協会は、グループ・システムの採用に成功していた。その州団体は、ミズーリ、イリノイ、そしてアイオワであった。1907年のOBAの総会で、「グループ・システム」という題のスピーチの中で、ウォーターヴィルのF・E・シャフマスターは、ミズーリ銀行協会の理事の論述を引用した。「ミズーリにおける、グループ・システムの採用以来、当協会の他のいかなる側面も、グループ・システムの排除によって生じるであろう被害結果よりも、より少ない被害結果で、捨て去ることができる、と考えられる。」他の州団体における、グループ・システムの採用結果は、徐々に、オハイオの銀行家の関心を魅きつけた。²⁷⁾

1907年に、OBAは、グループ・システムを採用した。グループ・システムのアウトラインが、総会の案内状の中に、同封された。²⁸⁾そして、F・E・シャフマスターが、総会で「グループ・システム」のスピーチをした。その中で、同州は、便宜上巧く調整された、9地域又はグループに分割するよう、提案した。州団体から構成されているABAに言及して、「州団体こそが、ABA

成功の基盤であり、それら〔州団体〕なくしては、その〔ABAの〕有効性は失われてしまうだろう。州団体がABAにとって、そうであるように、グループ・システムも州団体にとって、同様である』と述べている。²⁹グループ・システムの、満場一致での採択の後、ランキン事務局長は、グループ・システムの採用に付随して、定款の変更を提案し、そしてメンバーは、各グループの委員長は、OBAの理事会のメンバーでなければならないとの提議を採択した。それ以降、オハイオの銀行家は、9グループの結成へと向かった。³⁰

各々に開かれた最初のグループ毎の会合では、714名の銀行家（出席者数を報告しなかった第3グループは除く）が、各グループの会合に出席した。多くのグループの委員長が、1908年の総会で、成功を報告した。第1グループの委員長で、シンシナチのL・クレイボルトは、「グループ・システムは、銀行家の親睦と協調の精神を、より緊密な方向に促進させるのに、確かである』と言った。³¹1910年の総会で、OBA事務局長S・B・ランキンは、OBAの会員数は、オハイオの総銀行数1145行中、841行、すなわち、第1グループは140行中112行、第2グループは150行中98行、第3グループは135行中102行、第4グループは114行中75行、第5グループは126行中106行、第6グループは126行中83行、第7グループは110行中80行、第8グループは117行中78行、第9グループは127行中107行である、と報告した。³²会員数の増加に加えて、この9グループ内に、各地域の銀行家の相互利害に対応するために、顧客に関する信用情報を提供する、情報センターを設置した。このようにして、グループ・システムの確立は、質量共に、OBAの発展に寄与した。³³

OBAの結成当初から、オハイオの銀行家は、州立銀行と民間銀行の検査のために、州銀行省を創設する、州立法を議論していた。1892年の総会で、クリーブランドのマイロン・T・ヘリックは、「銀行業の州監督」について話し、そして銀行家たちは、かなり突っこんで、州立法について議論した。ニューヨーク州が、同州の続発した金融機関の破産の後、報復の意味から、銀行の審査と州政府による監督を規定する法律を制定した事例を紹介して、「もし選択するなら、オハイオの銀行家も、監督に関する諸法律の可決を、当分は回避できるだろう。しかし、もしそのような法律が施行されていれば防げたかも知れない、昨年ペインズヴィルで起こったのと同様な破産が、もう2、3件起きれば、報復の1つになる可能性の高い2、3の法律を一般の人々が要求し、制定されることになるだろう。そして、そうなれば、ニューヨークの前の法律の二の舞である』と結論した。³⁴彼の演説の後に、スプリングフィールドのトーマス・F・マクグルーは、民間企業なのだから、オハイオ州は民間銀行を検査すべきではないと主張した。又、ヤングスタウンのロバート・マッカディは、銀行家はもう既に十分に嫌疑が掛けられていて、そして一般の人々は、この行動を誤解するだろうから、この総会が立法府に影響を与えるようなことには反対だと主張した。他方、あるメンバーは、一般の人々から貯金を預っている銀行は、普通の民間企業ではないのだから、オハイオ州も合衆国も、これらの金融機関に父権的な支配権を行使すべきだと論じた。又、民間銀行家のマウント・スターリングのJ・G・ルーフボローは、適切な基準であれば、民間銀行の審査に賛成であるとした。この州立法に関しては、OBAのメンバー間に、合意は全く見られなかった。³⁵

他州における州銀行省の成功を見て、OBAのメンバーは、1898年の総会で、州立法に関する委員会を設置した。シドニーからOBA会長に選ばれていた、W・A・グラハムは、会長演説の中で、「オハイオ州は、国立銀行以外の銀行を取締まる州省と州法を持つべきであるかのように、確かに思えるだろう。例えば、ニューヨーク、コネチカット、マサチューセッツ、カンサス、ネブラスカ、ミズーリ、インディアナ、その他の諸州にとっては、大いに有益であることが証明されている。そして、いかなる言葉で言っても、第一位で、そして仕事をする私たちは、決してこの点でも、遅れを取ってはならないし、そして銀行家である私たちは、私たち自身の手によって枠付けられた、適切な法案による立法化を、思いの通りに支配すべきだ。」と注意した。³⁶更に、トレドのデビッド・ロビンソンからの質問に答えて、理事会は、J・J・サリヴァン副会長、S・B・ランキン事務局長、そしてグラハム会長自らより成る、州立法に関する委員会があると述べた。ロビンソンは、翌冬に州議会に提議できるように、委員長が同協会から5人の委員を任命し、そして法律の草案を作らせ、理事会に提出するよう、動議を出した。³⁷2日目のセッションで、同会長は、デビッド・ロビンソン二世（トレド）を委員長として、A・E・ライス（フレモント）、E・P・シャープ（コロンバス）、J・J・サリヴァン（クリーブランド）、H・C・ハービッグ（コショクトン）を委員とする、州立法委員会を任命した。³⁸

1899年の総会で、州銀行法委員会は報告書を提出した。同委員会は、総会の10日から2週間前に、メンバーに法案の写しを送付していて、そして総会で、同委員会の委員長、デビッド・ロビンソンが法案を読み上げた。ロビンソンは、「この法案の一般的な概要は以下の如くである。同法案は、以下のことを規定する。 1. 長官の監督の下に、銀行省を設置。 2. 全ての州立銀行、信託会社及び住宅金融協会の審査。 3. 全ての銀行、信託会社及び住宅金融協会による、銀行省への、定期的な報告………」と言った。この草案は70ページに渡っていた。この報告の後、州銀行法についての議論が始まった。³⁹

同法案には多くの反対意見があり、そこでOBAは、同法案を、同委員会に翌年再び報告をするように差し戻した。反対論者の中では、州立銀行家が、最も顕著であった。カントンのジョージ・D・ハーターは、長いスピーチを行ない、そして多くの州立銀行家は、そのスピーチを支持した。「もし税調査官がある銀行へ行き、そしてその銀行の得意客の預金高のリストを入手したら、一体どんな効果が出るだろうか。その効果は、州立銀行から国立銀行に、預金者を動かすことになるだろう。……さて、この提案された法律は、国立銀行の預金者を増加させ、州立銀行の預金者を減少させる傾向がある、と私は言ったが、私はそれが決して、正当で公平であるとは考えない」とハーターは言った。その上更に、民間銀行家も同法案に反対した。⁴⁰ランキン事務局長が指摘したように、同委員会の5名のうち3名は、州立銀行家であり、そして何人かの州立銀行家は、州銀行省の設置提案に好意的であった。しかし、例え州銀行省の設置の支持者ですら、この法案は、国立銀行が審査されているのと同じ線で、審査を受けるよう修正されるべきだと言った。⁴¹長い論戦の後に、コロンバスのラインハードは、この法案を棚上げするよう動議を出したが、この棚上げの動議は、賛成35票、反対44票に終わった。⁴²この時点で、OBAは、同法案をもう1年

同委員会に付託することを決定したのだった。同委員会5名のうち、3名が辞職し、そしてそれ故OBAは、旧委員会で生じた空席全てを補充するよう、理事会に権限を与えた。翌年、新委員会がもう1つの報告書を提出した。⁴³

1900年の総会で提出された、新委員会の報告書は、1901年に、ほんのわずかの票差で、総会で可決した。同委員会は、慎重に銀行法を研究していた。同委員会は、カンサス、ニューヨーク、イリノイ、そしてミシガンの法律をよく消化、検討し、そしてそれらの州銀行協会に意見を聞いた。同法案は、国立銀行と同じ様に審査されるべきだという、州立銀行家の利害を、具体的に表現していた。⁴⁴

州議会では、OBAが後ろ押ししたムーア銀行法案は、1902年には上院を通過できなかった。この法案が失敗した理由は、多くの銀行家は今だに同法案に疑問を持っていたし、そして余りにも同法案が長文のため、多くの銀行家が同法案をじっくり読んでいなかったからであった。ランキン事務局長は、1902年の総会で、「何度も様々に修正を受けた後、同特別委員会によって立案された、同銀行法案が、州議会に提出された。そして、多くは誤解の故に、同法案を打ち破るべく、様々な影響力が行使された」と報告した。その後、同委員会は、同法案の修正に着手した。⁴⁵

ムーア銀行法案が不首尾に終わった後、同法案を通すために、他の組織であるオハイオ州商業会議所 (the Ohio State Board of Commerce) と協力を始め、そしてOBA内に貯蓄銀行・貯蓄信託会社部を組織した。⁴⁶ 州銀行法委員会を拡大した、OBAの立法委員会、そしてオハイオ州商業会議所の金融会社法委員会が、提携した。⁴⁷ これら2つの組織が協力した理由は、各々の組織は、オハイオ州の異なった銀行家のメンバーを持ち、そして両組織のメンバーの利害は、ほとんど同じだったからであった。⁴⁸ オハイオ州商業会議所との協力に加えて、OBAは、信託会社や他の銀行家の利害を内部に取り入れるために、組織内に、貯蓄銀行・貯蓄信託会社部を設置した。互いに手を取り合って、この3委員会は協力を始めた。OBAとオハイオ州商業会議所の共同委員会の指揮の下、オハイオの銀行家は、法案を作成した。

1905年のOBAの総会で、立法委員会は、オハイオ州商業会議所との協力を報告し、そして、民間銀行家の反対することになった法案を提示した。ほとんどの場合、メンバーは、オハイオ州商業会議所との協力を歓迎したが、民間銀行家は、修正法案の支持を拒絶した。規模の小さな民間銀行家は、立法委員会のメンバーにはいなかったし、そして田園地帯の規模の小さな民間銀行家には、決して享受できる余裕もない、いくつかの制限項目があった。⁵⁰ 不満を持った銀行家は、OBAを離脱し、そして1909年、オハイオ民間銀行協会 (the Ohio Private Bankers Association) を結成した。⁵¹

トランブル郡選出のウォレン・トーマス議員は、下院に修正法案 (下院法案第250号) を上呈し、そして同法案は下院を通過した。1905年12月のオハイオ州商業会議所の年次総会の後、OBAの立法委員会と貯蓄銀行・信託部、及びオハイオ州商業会議所の金融会社法委員会は、数度の会議を開いた。2団体は、今だに僅かな意見の違いがあったので、意見の調整にかなりの時間を費やし、1906年1月31日まで、州議会に同法案を送付することはできなかった。トーマス議員が法案を上

呈した後、下院の銀行・銀行業委員会が、法案の審議を始めた。同下院委員会は、1906年2月20日に、公聴会を開くよう手配した。OBAからは、フレモントのA・E・ライス（理事会のメンバー）、クリーブランドのH・P・マッキントッシュ（貯蓄銀行・信託会社部委員長）、そしてサウス・チャールストンのS・B・ランキン事務局長が、同銀行法案の利害を代表して、公聴会に出席した。州全体に渡る、小規模の銀行家が現われ、そして法案のいくつかの条項に反対した。法案は、1906年3月2日に下院の本会議に上呈された。いくつかの修正の後、同法案は、1906年3月15日通過した。⁵²

しかし、トーマス銀行法案は、会期が足りなかったため、1906年に上院は通過できなかった。下院通過の後、法案は上院に行き、そして銀行・貯蓄共済組合上院委員会は、1906年3月29日に、公聴会を開くよう手配した。この公聴会で、州の様々な所からやって来た銀行家が、姿を現わし、そしていかなる銀行をも検査するよう提案している、同法案の通過に反対した。特に、この公聴会に出た参加者は、同上院委員会の前で、それ以外何の他の議論もしなかった。州議会が同法案を審議していた、この2ヶ月の間に、上院の各メンバーは、同法案の印刷された写しを受け取り、そしてヘリック州知事とパティソン州知事が、共にその教書の中で、州議会に銀行検査法の制定を既に強く求めていたので、法律制定の重要性は、十分に認識していた。しかし、この時点で、上院が、同法案を審議するのに十分な時間を有していないことは、明らかだった。この状況を理解した、W・トーマス議員は、下院法案第250号の単に検査の部分だけを含んだ、下院法案667号を、1906年4月2日、下院に提出した。この法案は直ちに下院を通過し、そしてすぐ上院に回された。上院は、同法案を、賛成16票、反対19票、棄権2票で否決し、同法案を、銀行・貯蓄共済組合上院委員会に差し戻した。⁵³

大急ぎで、全ての法律制定活動が終わった後、銀行家は、次の州議会まで、1年以上も待たねばならなかった。州議会選挙と市町村議会選挙を分離する、憲法の修正により、次の州議会は、1908年1月1日に再開の予定であった。この期間、OBAとオハイオ州商業会議所は、各々、法案を修正し、そして州議会での法案の通過の準備をしていた。⁵⁴

1908年、トーマス法案は上院を通過し、そして新法により、州銀行省が創設された。トーマス法は1908年5月1日可決され、そして州知事は1908年5月15日承認をした。州銀行省が、完全に機能するようになったのは、1910年4月1日以降であり、そして銀行・銀行業州長官になったB・B・セイモアが、銀行の審査を開始したのは、1908年7月17日であった。アイアントンからOBA会長に選出されていた、E・W・ビクスビーは、1908年の会長演説で、次の様に話している。「同協会に広く広がっていた感情によって支持されていた、永年に渡る理事会と立法委員会の熱心で精力的な努力の結果、トーマス銀行法案が遂に法律となった。そして疑いもなく、望んでいたこと全てではないが、より完全な構造組織を建てることができ、そして建てられるだろう、しっかりとした基盤が、据えられた。」トーマス法案の通過はOBA成熟のもう1つの象徴であった。⁵⁵

V. 結 語

OBAの発展は、ABAと他の州銀行協会の発展と、緊密に結び付いていた。まず最初に、ABAが在った。しかしアメリカ合衆国の政治構造及び地域多様性の故に、ABAは、アメリカの銀行家に十分に役に立つことができなかった。各州における相互利害を促進し、そして全国団体の基盤を強化するため、ABAは、各州に銀行協会を結成するよう、銀行家に奨励した。OBAは、そうした趨勢の一産物であった。結成後、OBAは、ABAが果たすことのできなかった機能を、果たそうと努めた。伝達調整機能を果たすために、OBAは「グループ・システム」を設置し、そして立法機能を果たすため、立法委員会を設置し、州銀行省を創設させた。OBAの成立は、組織社会の時代における、銀行家の適応的行動の1つの表われであった。

(注)

- (1) Robert H. Wiebe, *The Search for Order, 1877—1920* (New York, 1967); Louis P. Galambos, “The Emerging Organizational Synthesis in Modern American History,” *Business History Review*, 44 (1970), 279—90; Louis P. Galambos, “Technology, Political Economy, and Professionalization: Central Themes of the Organizational Synthesis,” *Business History Review*, 57 (1983), 471—93; Robert F. Himmelberg, *The Origins of the National Recovery Administration: Business, Government, and the Trade Association Issue, 1921—1933* (New York, 1976); Richard S. Tedlow, “The National Association of Manufacturers and Public Relations during the New Deal,” *Business History Review*, 50 (1976), 25—45; Richard Hume Werking, “Bureaucrats, Businessmen and Foreign Trade: The Origins of the United States Chamber of Commerce,” *Business History Review*, 52 (1978), 321—41.
- (2) Joseph F. Bradley, *The Role of Trade Associations and Professional Business Societies in America* (State University, Pennsylvania, 1965), 4.
- (3) National Industrial Conference Board, *Trade Association; Their Economic Significance and Legal Status* (New York, 1925), Appendix B, 327—32.
- (4) Louis P. Galambos, *Competition and Cooperation: The Emergence of a National Trade Association* (Baltimore, 1966); William G. Robbins, “Voluntary Cooperation vs. Regulatory Paternalism: The Lumber Trade in the 1920s,” *Business History Review*, 56 (1982), 358—79.
- (5) American Bankers Association, *Proceedings of the Convention, 1881*, 3; 1893, 70—71; Wilbert M. Schneider, *The American Bankers Association: Its Past and Present* (Washington, D. C., 1956), 7, 44.
- (6) A. B. A., *Proceedings, 1896*, 125—29; Fritz Redlich, *The Molding of American Banking: Men and Ideas* (New York, 1968 [c. 1947—1951]), II, 301—2.
- (7) Ohio Bankers Association, *Proceedings of the Annual Convention, 1900*, 17; James M. Whitsett, *Banking Operations in Ohio, 1920—1940* (Columbus, Ohio, 1941), 12.
- (8) Belford P. Atkinson, “The First Seventy-Five Years of Ohio Bankers Association, 1891—1966,” (unpublished paper) は、コロンバス市のオハイオ歴史協会の、Ohio Bankers Association Records, Mss., Series III, Subseries 2, v. 2, に所収。
- (9) Charles Clifford Huntington, *A History of Banking and Currency in Ohio Before the Civil War* (Columbus, Ohio, 1915); James M. Whitsett, “Trends in Ohio Banking, 1920—1937,” (doctoral dissertation, The Ohio State University, 1939); Whitsett, *Banking Operations in Ohio*.

- (10) Schneider, *American Bankers Association*; Mansel G. Blackford, "Banking and Bank Legislation in California, 1890—1915," *Business History Review*, 47 (1973), 482—507.
- (11) より広い観点からは、以下を参照。Margaret Good Myers, *A Financial History of the United States* (New York, 1970); Milton Friedman and Anna Schwartz, *A Monetary History of the United States, 1867—1960* (Princeton, 1963); Paul B. Trescott, *Financing American Enterprise: The Story of Commercial Banking* (New York, 1963); Benjamin J. Klebaner, *Commercial Banking in the United States: A History* (Hinsdale, Ill., 1974); George D. Green, "Financial Intermediaries," in Glenn Porter ed., *Encyclopedia of American Economic History* (3 vols., New York, 1980), II, 707—26. 各州の銀行史は、以下を参照。Henry Wysham Lanier, *A Century of Banking in New York, 1822—1922* (New York, 1922); Walter W. Chadbourne, *A History of Banking in Maine, 1799—1930* (Orono, 1936); Florence Helm, *Banking Developments in Missouri, 1920—1936* (Fulton, 1939); Theodore A. Andersen, *A Century of Banking in Wisconsin* (New York, 1954); Larry Schweikart, *A History of Banking in Arizona* (Tucson, 1982); Timothy W. Hubbard and Lewis E. Davids, *Banking in Mid-America: A History of Missouri's Banks* (Washington, D. C., 1969); James M. Smallwood, *An Oklahoma Adventure of Banks and Bankers* (Norman, 1979). アメリカの他産業の業界団体についても、いくつかの研究がある。それらの研究は以下の通り。Valdemar Ephraim Carlson, "Associations and Combinations in the American Paper Industry," (doctoral dissertation, Harvard University, 1931); D. T. Gilchrist, "Albert Fink and the Pooling System," *Business History Review*, 34 (1960), 24—49(鉄道); Galambos, *Competition and Cooperation* (綿繊維); Wallace Clayton Dunham, "The Role of National Trade Associations in the Food Industry," (doctoral dissertation, Cornell University, 1971); Donald Andrew Grinde, Jr., "The Gunpowder Trade Association: A Search for Stability, 1872—1912," (doctoral dissertation, University of Delaware, 1974); Robbins, "Voluntary Cooperation," *Business History Review*, (材木).
- (12) これは、1875年6月21日付で、準備委員会が、アメリカの全銀行に送付した招待状の一部である。Schneider, *American Bankers Association*, 6.
- (13) A. B. A., *Proceedings*, 1893, 70—71.
- (14) *Ibid.*, 1881, 4; 1896, 19; 1897, 12; Schneider, *American Bankers Association*, 44.
- (15) *Ibid.*, 82—104.
- (16) A. B. A., *Proceedings*, 1889, 41, 42; 1892, Second Day's Proceedings, 50—60. 州団体の増加に伴い、全国団体の業務に対する無関心が広がった。メンバーの間には、今だに強い不満があった。*ibid.*, 1893, 78.
- (17) *Ibid.*, 1889, 42, 168—70; 1896, 125—29; Redlich, *The Molding of American Banking*, II, 301—2.
- (18) A. B. A., *Proceedings*, 1896, 7, 17, 19; 1897, 12.
- (19) O. B. A., *Proceedings*, 1901, 90.
- (20) A. B. A., *Proceedings*, 1888, 94—95; O. B. A., *Proceedings*, 1901, 90.
- (21) *Ibid.*, 1891, 3—4, 11; 1901, 90. 55名の銀行家が連名で、以下の召集を発した。「オハイオ州の国立銀行、州立銀行及び民間銀行へ。あなたたちは、あなたたち各々が、オハイオ州のための銀行協会を組織する目的で、1891年11月5日木曜日、午前10時にコロンバス市で会合をするために、1名の代表——頭取か支配人——を送るよう、強く望まれます。」
- (22) *Ibid.*, 1891, 5, 7—9, 13.
- (23) *Ibid.*, 1892, 13; 1900, 17, 101; 1905, 22; 1908, 14—15, 20.
- (24) Minutes of Meeting of Executive Council on Oct. 30, 1900, in Ohio Bankers Association, *Proceedings of the Executive Council*. 89; OBA Records; Minutes of Meeting of the Council of Administration on December 11, 1907, in *Ibid.*, 187; OBA Records; O. B. A., *Proceedings*, 1903, 4, 75; *The Ohio Banker*, March, 1908, 9—10. 理事会は、1902年に副事務局長を雇うことを決定し、そしてランキン事務局長は、自行から彼を選任した。1907年、執行理事会はまた事務局専任の速記者を雇うことを決定した。
- (25) *Ibid.*, 8.

- (26) O. B. A., *Proceedings, 1898*, 83—84.
- (27) *Ibid.*, 1907, 115; Minutes of Meeting of the Executive Council on Oct. 11, 1906, in O. B. A., *Proceedings of the Executive Council*, 161—62; OBA Records. 理事会は、同事務局長に、グループ・システムに関する全ての情報を集めるよう、要請した。
- (28) Minutes of Meeting of Executive Council on March 14, 1907, in *Ibid.*, 171—73; OBA Records; Minutes of Meeting of Executive Council on June 25, 1907, in *Ibid.*, 177—78; OBA Records; O. B. A. *Proceedings, 1907*, 115. 1907年3月14日、理事会はグループ・システムの計画について議論し、そしてこの議題を総会に提起するための、委員会を任命した。グループ・システムに関する徹底的な議論の後、6月25日に、理事会は同計画を承認した。
- (29) *Ibid.*, 115—18.
- (30) *Ibid.*, 120; Minutes of Meeting of Executive Council on August 27, 1907, in O. B. A., *Proceedings of the Executive Council*, 183—84; OBA Records; Minutes of Meeting of the Council of Administration on December 11, 1907, in *Ibid.*, 191; OBA Records. OBA は定款の第2条第4項を修正した。修正された定款は以下の通り。「第4項。協会の経営管理は、勤務できない時は、代理人を任命できる。各グループの委員長から構成されている、『執行理事会』として知られている理事会に、権限は付与されるものとする。会長、副会長、事務局長及び会計は、執行理事会の兼任の役職メンバーでなければならない。会長は、後任が選任された次の一年間は、執行理事会の兼任の役職メンバーとして留任し、執行理事会の名誉メンバーとして遇されねばならない。同理事会は、独自の委員長を選出する。」それ以来、グループの委員長が、実質上OBAの支配権を握った。
- (31) O. B. A., *Proceedings, 1908*, 35—48; *The Ohio Banker*, March, 1908, 12.
- (32) O. B. A., *Proceedings, 1910*, 44.
- (33) *Ibid.*, 7—8.
- (34) *Ibid.*, 1892, 28—34.
- (35) *Ibid.*, 36—39.
- (36) *Ibid.*, 1898, 26.
- (37) *Ibid.*, 67—69; Minutes of the Executive Council Meeting on November 17, 1897, in O. B. A., *Proceedings of the Executive Council*, 23—25; OBA Records. この会合で、理事会は、理事会委員長及び協会の会長と副会長より構成される、立法委員会を任命した。
- (38) O. B. A., *Proceedings, 1898*, 76.
- (39) *Ibid.*, 1899, 58—61, 66.
- (40) *Ibid.*, 61—65, 72—73.
- (41) *Ibid.*, 67—68, 74.
- (42) *Ibid.*, 95.
- (43) *Ibid.*, 102—4.
- (44) *Ibid.*, 1901, 36, 63—66, 77.
- (45) *Ibid.*, 71—76; 1902, 23, 27; 1904, 20.
- (46) Ohio State Board of Commerce, *Proceedings of the Annual Meeting, 1899*, 7; 1904, January, 36; O. B. A., *Proceedings, 1905*, 111—12. 1893年11月8日に、クリーブランド商業会議所の召集に対応して、同州の13都市の商業団体の代表が集まり、そして「商業団体の利害を統一し、必要な前進と立法改革の方向に導くような組織によって、我が州の商業上及び一般的な利害を促進させるために」、オハイオ州商業会議所は結成された。この意味で、オハイオ州商業会議所は、OBAよりも幅広い利害関係者を代表していた。
- (47) Minutes of Meeting of the Executive Council on Aug. 25, 1904, in O. B. A., *Proceedings of the Executive Council*, 123; OBA Records. この会合で、理事会は、立法委員会を拡大し、そして今度は12名のメンバーより成る委員を任命した。O. B. A., *Proceedings, 1905*, 48—51.
- (48) Nathaniel Henchman Davis, Chairman, of Cincinnati, “Report of the Committee on Financial Corporation Laws,” in O. S. B. C., *Proceedings, 1904, December*, 112, 113—14; 1908, 160. 「本委員会は、

法律制定に適用された時に、この問題に関してアメリカで最も重要な諸州の法律よりも、ずっと良くはないとしても、同程度に良いように、州立銀行や民間銀行、信託会社や貸金庫会社及び貯蓄銀行に影響を与えるオハイオ州法を、策定する一般原則に関する声明を明確に系統だてて説き、そして小委員会の助力や既存の団体との協力を通じて、この目的を果たすために、別々の法案、あるいはもし可能なら、様々な法律をまとめた1つの法案のいずれかによって、様々な金融機関に関する、数多くの法律を検討し一定の方式で作成するために、組織された。」O B A の2年間に渡る、州議会での奮闘と失敗を回顧して、オハイオ州商業会議所のメンバーは、自分たちが OBA を助けることができるのではないかと考えた。「本委員会は、様々な金融機関及び実業界の積極的な協力と援助によってのみ、この任務の完遂を期待できる。そしてこうした利害関係者の協力によってのみ、この状態を改善するための、一法案あるいは複数の法案の制定を、確実にする期待が持てる。」この2組織のメンバーの違いについて言えば、多くの信託会社は、OBAのメンバーではなく、オハイオ州商業会議所のメンバーだった。

- (49) O. B. A., *Proceedings, 1905*, 111—12; Minutes of the Meeting of the Executive Council on December 4, 1905, in O. B. A., *Proceedings of the Executive Council*, 137; OBA Records; O. S. B. C., *Proceedings, 1905*, 107—10.
- (50) O. B. A., *Proceedings, 1905*, 48—51, 64—65, 117, 119—29; O. S. B. C., *Proceedings, 1906*, 169. 小規模な民間銀行家が反対したのは、いくつかの理由がある。理由の一つは、提案された銀行法案が、銀行にとって必要な最低資本金を、各カテゴリーで各々2万5千ドルから10万ドルと定めたからであった。
- (51) Atkinson, "The First Seventy-Five Years," 44. この組織、オハイオ民間銀行協会は、1920年代初めに、解散又は消滅した。
- (52) O. S. B. C., *Proceedings, 1906*, 168—72; Minutes of the Meeting of the Executive Council on February 2, 1906, in O. B. A., *Proceedings of the Executive Council*, 141; OBA Records.
- (53) O. S. B. C., *Proceedings, 1906*, 172—74; O. B. A., *Proceedings, 1906*, 24; Minutes of the Meeting of the Executive Council on September 26, 1905, in O. B. A., *Proceedings of the Executive Council*, 129; OBA Records. OBA は、新銀行法案の準備費用に、1,000ドルの予算を割当てた。以前いつもそうであったように、OBAは同法案の写しを印刷し、そして州議会のメンバーに送付したものと考えられる。
- (54) O. S. B. C., *Proceedings, 1906*, 174; *1907*, 304—12; O. B. A., *Proceedings, 1906*, 17, 24—25; Minutes of Meeting of the Executive Council on October 11, 1906, in O. B. A., *Proceedings of the Executive Council*, 159; OBA Records. 1906年10月11日に、理事会は、常任立法委員会を解散し、1907年春まで、立法委員会の任命は延期した。又、理事会は、立法委員会を毎年任命するよう、規則を定めた。
- (55) O. B. A., *Proceedings, 1908*, 15, 35; O. S. B. C., *Proceedings, 1908*, 152—54; *The Ohio Banker*, March, 1908, 3—4, 10; April, 1908, 8, 10; May, 1908, 2. OBA成熟のもう1つの象徴は、『ジ・オハイオ・バンカー』誌が、「オハイオ銀行協会の短かい歴史」というシリーズ物を、1908年10月号から始めたことである。このシリーズは、1910年9月号で「続く。」と告げたまま終わっている。*ibid.*, September, 1910, 4.

[付記] 本稿は、オハイオ州立大学ジョン・C・バーナム教授の指導を受けた。記して、謝意を述べたい。